



循環型農業を目指して 野尻町有機センターの役割

●問Ⅱ野尻庁舎地域振興課 TEL 44・1100 (代表)

循環型農業とは？

米や野菜などの農産物を収穫した後のわらや収穫くずが家畜の餌となり、その家畜のふんから作られた堆肥で農産物が育つ。こうした有機資源を循環させながら自然環境への負担を軽減し農産物を生産する営みは、動植物の生態系が維持され、持続性が高い理想的な農業体系といえます。

家畜の排せつ物を良質な完熟堆肥に

野尻町有機センターは、こうした循環型農業を目指した取り組みの一端を担う施設です。畜産業が盛んな小林市で大量に発生する家畜のふん尿などの排せつ物

を適正に処理し、完熟堆肥化。その堆肥の利用を推進することで、環境汚染の防止などにつながっています。

有機資源を循環させて持続可能な農業を実現

近年、肥料価格の高騰などの影響で化学肥料から有機肥料への転換が全国的に進められている中で、未発酵の堆肥を無償または安価に調達する農家も増加しています。しかし、生ふんや未熟な堆肥を使用すると、土壌中での急激な分解により作物の生育に悪影響を及ぼす可能性があります。私たちの「食」を支える農業が将来にわたり持続可能なものとするためにも、未熟な堆肥を使用せず、成

分の安定した堆肥の使用を推進することが重要です。

昨年12月には市内8つの小・中学校に製造している堆肥を配布するなど、地域全体で有機資源を循環させる大切さを広め、地域農業生産基盤の安定を図るとともに、持続可能な農業の実現を目指します。

野尻町有機センター

完熟堆肥「うぐいす有機」を使ってみませんか

●問=株式会社のじりアグリサービス TEL 44・1850

うぐいす有機は、市内の畜産農家から収集した牛ふん・豚ふん・鶏ふんを6対2対2の割合で混合し、おおよそ4カ月の期間をかけて作り上げた良質な完熟堆肥です。

市内では、梨・ぶどう・栗・メロン・きゅうり・ピーマン・花きなどの生産農家が使用しており、幅広い農作物に使用できます。



▲袋物やばらの製品を製造しており、水田、畑、ビニールハウスなどには散布サービスを行っています

▼価格などの詳細情報は株のじりアグリサービスのホームページで確認できます



▲市内小中学校8校に120袋の堆肥を配布